

# スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）

令和3年4月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 発生時期が早まる可能性があるため、注意しましょう

### 1 前年作の発生状況

昨年7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は、34.8%（平年24.8%、前年32.5%）と、過去10年で最も高い状況でした。また、ほとんどの株が食害に遭ったほ場も県内各地で報告されました。

### 2 スクミリンゴガイについて

本種は、ほ場、水路で越冬し、水温15℃以上で活動を開始します。特に柔らかい植物を好み、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。水中で摂食活動を行い、水面上の茎葉も引き込んで摂食するため、食害に遭った部分は欠株となります。多発生の場合、ほとんどの株が食害されることもあります。

### 3 今後の発生予測

冬期の気温が高いほど、スクミリンゴガイの越冬量は多くなります。令和2年10月から令和3年3月までの日平均気温は10.58℃（平年9.86℃、前年11.32℃）と過去10年間で3番目に高い状況です。また、4月1日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されるため、本種の活動開始が例年より早まる可能性があります。そのため、前年作で被害が大きかったほ場では特に注意が必要です。

### 4 防除対策

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、下表を参考に薬剤散布を行います。薬剤散布後、少なくとも3～4日間は湛水（水深3～5cm）を維持し、7日間は、落水、かけ流しをしないようにしましょう。

また、スクミリンゴガイは、水中でないと摂食できないため、水深を4cm以下にすることも有効です。

水路から本田への本種の流入を防ぐため、取水口にネットを設置しましょう。

### 5 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>）（令和3年3月改訂）を公開していますので、参考にしてください。

表 水稻のスクミリンゴガイに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	IRACコード
スクミノン	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布	2回以内	8x
ジャンボたにくん	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布	2回以内	8x
スクミンベイト3	燐酸第二鉄	発生時	散布、無人ヘリコプターによる散布	-	UN

使用回数には、同一有効成分を含む剤の使用回数を含む。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism_irac03.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。